

風土記のふるさと

住みよいまちづくりをめざして

下大野地区コミュニティプラン



住みよい下大野をつくる会

古来、むら社会の中で一番重んじてきたのが近所の義理で、冠婚葬祭や非常時の助け合いは最も大事なことでした。さらに、集落の道ぶしんや水江払いなども当たり前の住民行事でした。

また、四季折々のまつりは、民間信仰とからませ生活のリズムに欠かせない文化で、家庭や地域で温かく継承してきました。

昭和時代、地域の8割を占めた農家は高度経済成長期を境に、同じ生業を中心としてきた集落文化は様変わりしました。このような中で、強い絆としてきた結や常会のお手伝い文化もゆらぎ、慶弔儀礼も業界の発展によりうまく運ぶようになったことから、地域連帯が稀薄になってきました。

かって、「つけぎ」という習慣がありました。つけぎとは経木の先に硫黄をつけたもので、交際の火が絶えぬよう「火を継ぐ附木」にあやかって、いただきものをするに「お礼の印として」附木を添えて返礼したものです。これは、コミュニティの原点のようなもので、細く長くできる交際術のように思われます。

昨今、予測のつかない災害が多発しますが、これからも先人の知恵に学び、だれもが安全、安心に暮らせる環境づくりのためこのプランを策定しました。



みんなが
愛する
大洗鹿島線





津波・洪水に そなえて

自分の命は自分でまもる。
 災難の先触れはない。
 いつでも・どこでも、
 とっさの行動に心がけよう。

安全・安心

那珂川・洶沼川の築堤促進

格言を生活に 生かそう

地震・カミナリ・火事・おやし
 災害は、忘れるころにやってくる。
 備えあれば、患えなし。



油断大敵

のど元過ぎれば、熱さを忘れる。



地震に津波
 ゲリラ豪雨に大洪水
 転ばぬ先の杖
 ニセ電話・特殊サギ

公德を守ろう

長幼をわきまえよう
 高齢者を敬おう
 子供を大事にしよう
 郷土に誇りをもとう



温かい家庭で豊かな心を育もう

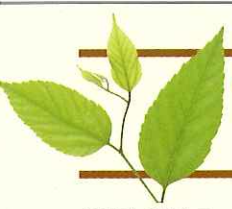
下大野地区の海拔

下大野地区の海拔は、ほとんどが5m以下です。
津波に備えて、常に居場所を意識して早く避難しましょう。

- ① 一区集落センター
海拔4.4m
- ② 二区コミュニティセンター
海拔4.1m
- ③ 水戸高等特別支援学校
(一時避難所) 海拔4.9m
- ④ 水戸産業技術短期大学校
(一時避難所)
- ⑤ 下大野市民センター
(避難所) 海拔3.9m
- ⑥ 常澄駅
(一時避難所)
- ⑦ 小泉集落センター
海拔2.1m
- ⑧ 川又集落センター
海拔2.2m
- ⑨ 平戸区民館
海拔2.6m
- ⑩ 塩崎集落センター
海拔3.5m
- ⑪ 常澄中学校
(避難所) 海拔16m
- ⑫ 水戸市大串貝塚
ふれあい公園
海拔16.0m
- ⑬ 下大野小学校
(避難所) 海拔4.0m



稲荷第一学区



下大野のあゆみ

- 明治22年 5大字で下大野村が発足する。
戸数430・人口2,642・面積9.78平方キロメートル
塩崎尋常小学校、下大野尋常小学校と改称する。
- 25年 塩崎に3ヶ村鼎立常澄高等小学校が開校する。
- 39年 小泉に、警察官駐在所を開設する。
- 43年 下大野敬老会を行う。下大野村処女会が発足する。
- 大正3年 役場を小泉215番地に建設、4年開庁する。
下大野青年会が発足する。
- 11年 水浜電車が開通、塩ヶ崎、平戸に停留所ができる。
- 12年 水浜電車株式会社から、家庭電気を導入、普及する。
- 昭和4年 小泉・湊間の那珂川に、関戸橋が完成する。
- 9年 村青年団が皇子ご降誕記念事業として、下大野公会堂を建設する。
- 13年 16年の2回、那珂川大洪水(流域被害甚大)、関戸橋大破する。
- 14年 下大野農業祭を開催する。
- 15年 下大野村野中組合、模範組合として農林大臣賞を受賞する。
- 17年 農村青壮年文化昂揚で、村に巡回文庫を開設する。
- 18年 食糧増産のため、地区全家庭の共同炊事を開始する。
- 19年 下大野警防団本部詰所を竣工する。
- 20年 川又、新晃造船所200t級の船、ロケット弾で撃沈される。
- 23年 下大野農業協同組合が設立する。
下大野中学校が開校する。24年新校舎落成する。
- 27年 耕地整理事業を開始する。
小泉・那珂湊間に湊大橋が開通する。
- 28年 下大野農協で製パン事業開始、下大野小学校で完全給食始まる。
- 30年 常澄村になる。(合併時、下大野の戸数671、人口4,007)
- 33年 下大野中学校を、常澄中学校に統合する。
- 37年 簡易水道が完成する。プロパンガスが普及する。
- 38年 小泉地区、新生活運動モデル地区に指定される。
- 40年 消防車、下大野(第1分団)に配属される。
- 41年 日本最初の農村集団電話を導入、普及する。
大野みろくばやし、県指定民俗資料文化財になる。
- 43年 下大野幼稚園が開園する。
- 48年 村防災無線網、放送を開始する。
- 50年 村新生活運動協議会、冠婚葬祭の簡素化を実施する。
- 60年 大洗鹿島線開通。塩崎地内に「常澄駅」を開設する。
- 平成3年 塩崎地内に、大串貝塚ふれあい公園が開園する。
- 4年 水戸市に合併、各大字が町となる。
- 11年 区制の廃止に伴い、住みよい下大野をつくる会が発足する。
- 12年 下大野町内に、水戸市下大野公民館が開館する。
- 22年 水戸市下大野市民センターと改称する。

